

# 令和7年度 地区担い手との座談会 実施報告 (全 25 地区 集計版)

## 1. 開催趣旨、概要

「町民のしあわせプロジェクト(しあわせPJ)」の一環として、従来の行政懇談会から更に一歩進め、本年度は、各地区の役員など「担い手の方々」との率直な意見交換を実施致しました。

集落支援員や地域おこし協力隊も同席し、各行政区の現状や課題・将来への展望をお聞きすることで、今後の町政への反映および“共創協働による地域づくりを”進めるものです。

●開催期間: 2025年7月28日～12月8日 ●開催場所: 各地区の集会所 or 役場

●出席者: 区長、地区役員、担当民生委員、お住まいの町議会議員と地域おこし協力隊

町側…菅原副町長 or 田中副町長、  
行政経営課職員、後藤集落支援員、浪岡地域おこし協力隊

## 2. 各行政区の懇談内容

### ■ 源橋地区(2025年7月28日)

#### ● 主な課題・意見:

- 人口減少: 町に住みたくても場所がないという声があり、移住希望者が気軽に住める住宅の確保が人口増に不可欠。若い世代の定住には婚活支援も必要。
- 農業の担い手: 農地規模は大きいが後継者不足が深刻で、育成に注力する必要がある。
- 生活環境: 道路の倒木や危険箇所があり、獣害対策も含めた間伐等の要望が出された。

### ■ 本寺地区(2025年7月28日)

#### ● 主な課題・意見:

- 文化財の維持: 文化財や集会所の老朽化が進んでいるが、地区だけで守っていくのは限界に来ている。町と連携した新しい伝承の形が必要。
- 獣害や雪害: 熊やイノシシ対策(電柵の設置管理)、大雪の際の高齢者世帯など除雪困難世帯への見守りや除雪支援が必要である。
- 高齢化: 行事をこなすだけで精一杯、今後の人足負担が重荷になる懸念がある。

## ■ 六郎原地区(2025年8月26日)

- 主な課題・意見:
  - 冬場の対応: 高齢者が増える中、冬場の除雪が大きな負担となっている。現在は親族や民間業者に有料で頼んでいる世帯もある。
  - 地域の将来: 高齢化による集落維持の不安がある。若い世代や住民が主体性を持ちながら、町に空き家や宅地を活用してもらい移住者を歓迎したい。

## ■ 入倉地区(2025年8月26日)

- 主な課題・意見:
  - 通学支援: 幼稚園と中学校はあるが、小学校のみ送迎バスがない。クマや不審者対策としても有効なため、町のバスの活用を検討してほしい。
  - 除雪: 歩道除雪が間に合わず、通学に支障をきたしている。町から除雪機を借用し、地区で出来る人がやってはどうか？
  - 行政区の維持: 町からの依頼業務に人足、現役世代には役員の負担は大きく、消防団など複数兼務も限界がある。活動の在り方を再検討すべき。

## ■ 妙法原地区(2025年9月8日)

- 主な課題・意見:
  - 担い手不足: 高齢化により地域活動の担い手が減少、町民運動会の出場も困難になるなど、地区行事の維持や無理のない活動の形を模索していく必要がある。
  - 景観維持と活用: 農村公園の桜や眺望が良く、桜の木や東屋の老朽化の課題はあるが、その景観を守り地区の魅力として活用していきたい。
  - 共有地と防災の課題: 地区内には多くの共有地があり登記が出来ない状態もある。また、地区内道路が袋小路となっている為、火事や防災上の懸念がある。

## ■ こぶしヶ丘地区(2025年9月29日)

- 主な課題・意見:
  - 交流の活性化と新仕組み: "顔の見える関係"の希薄化に対し、若者や子育て世帯も参加しやすく、役割を担いやすい新たな行事や組織のあり方を検討。
  - 地区存続と移住促進: 高齢化による将来的な危機感がある。住宅地としての魅力を向上させ、通学費支援など、若者世代を呼び込む施策を求めている。

## ■ 塩ノ原地区(2025年9月29日)

- 主な課題・意見:

- **農業の担い手と獣害:** イノシシやクマに対する対策の必要性と共に、農地の維持管理を継続して行くには農業の担い手や農地の借り手確保が課題。
- **デジタル化と高齢者:** スマホ非保持者の高齢者が取り残されない施策を求める声と、独居高齢者の安否確認サービスの導入やその周知の強化も必要。
- **行事維持と在り方:** 高齢化が進み、運動会など地区の実情に見合った「新しい行事の形」を再検討しながら、これまでの地域コミュニティを維持して行く事が重要。

## ■ 布藤地区(2025年9月30日)

- **主な課題・意見:**
  - **世代交代と行事の維持:** 少子高齢化で、後継ぎ問題や地区存続の危機感がある。町民運動会などの行事に参加できる年齢層が不足し検討が必要。
  - **恵まれた景観を生かして:** 磐梯山の正面に望む美しい景観を活かし、買い物や高校通学の負担を改善しながら、移住者を増やせるような取組が必要。
  - **農地活用の期待:** 新しい農業の担い手として地域おこし協力隊や移住者を歓迎したい。お試し農業体験や、公民館を活用した交流など検討してはどうか。

## ■ 横達地区(2025年10月7日)

- **主な課題・意見:**
  - **共有地問題:** 所有者不明や多数の共有者がいる共有地などが、有効な土地活用の妨げとなっている。個人での解決が難しく、町の支援が必要。
  - **獣害とインフラ維持:** クマやイノシシの対策が必要。消防団合併の話はあるが、消防屯所などが合併となればその費用負担はどうなるのか。
  - **若者の定着:** 若い世代のUターンや移住を増やすには、町内に働ける場所や娯楽も含めた、環境整備が重要。

## ■ 大寺六区(2025年10月8日)

- **主な課題・意見:**
  - **人口減少:** 若手が減少し運動会参加や伝統行事の継続が困難になっている。地区内の空き地を活用し、子育て世帯やシグマで働く方が定住できる宅地整備を。
  - **関係の気薄化:** 居住実態の分からない家や空き家もある。「お茶のみ会」を開催するなど、町と協働しながら住民が主体的に地区運営を考えて行きたい。

## ■ 大寺二区(2025年10月14日)

- **主な課題・意見:**

- **環境美化と商店街の活性化:** 駅前から恵日寺へ続く通りや商店街の景観整備、ポケットパークの補修など、地区の「顔」となるエリアの美化と賑わいの再考。
- **若者住宅の運用改善:** 子が成人すると退去の現行ルールにより、定住者が町外へ流出している現状。多世代が住み続けられるよう柔軟な制度設計が必要。
- **孤立防止と多世代交流:** 住民の約6割が60歳以上、独居高齢者の孤立対策が急務。子供向けイベントの開催など、若い世代と自然に交流でき、将来「戻ってきたい」と思える愛着を育む環境づくりが重要。

## ■ 大寺五区(2025年10月20日)

- **主な課題・意見:**
  - **歴史を活かし地域活性化:** かつての「大寺宿」としての歴史を誇りとし、案内看板やベンチの設置、来訪者への「おもてなし」を通じて地区の活気を取り戻したい。
  - **「ばんだいの森」の多世代活用:** 地区の資源である「ばんだいの森」を、子供の遊び場や高齢者の健康維持(ウォーキング等)の場として活用し、世代を超えた交流拠点にしたい。
  - **移住促進と現代的な「共助」構築:** 積極的な移住者の受け入れを望む。伝統的な支え合いの精神を、新しい住民と分かり合える形で継承していくことが重要。

## ■ 一の沢地区(2025年10月20日)

- **主な課題・意見:**
  - **人口減少による課題:** 住民の半数以上が65歳以上。祭礼行事は女性たちの献身的な支えにより維持している。人足をいかに次世代へ継承するかが課題。
  - **移住促進に向けた提案:** 「意欲ある移住者がいれば家を譲ってもいい」という跡継ぎ問題を見据えた前向きな声や、町内企業に勤務する若者のために役場主導で宅地造成を行うべき。
  - **孤立を防ぐ「交流の場」:** 一人暮らしの高齢者が増え、健康チェックや茶話会のような、従来の老人クラブの枠を超え気軽に参加できる「共助」の場が必要。

## ■ 法正尻地区(2025年10月21日)

- **主な課題・意見:**
  - **農業の事業承継:** ほうれん草栽培などの担い手として、町外から就農希望者を歓迎する。単なる労働力ではなく、将来的に事業を引き継ぎ、新しい作物にも挑戦するような意欲ある人材を求める。
  - **伝統と「ちょうどいい田舎」:** 遺跡や天然記念物などの資源に加え、今なお太鼓で「村休み」を知らせる伝統が残る。泥だらけになる人足も皆で楽しむまとまりの良さがあり、その魅力を次世代や外部へ伝えていきたいという誇りが語られた。

- **外部人材の積極活用:**「外の人を拒まない」強みを活かし、地域おこし協力隊制度を戦略的に活用し移住者やUターン者を募る案が出された。

## ■ 大寺三区(2025年10月27日)

### ● 主な課題・意見

- **行事の維持:** 町民運動会やクリーンアップなど人集めに苦勞。「担い手不足」という切実な状況は、伝統ある山神社の祭礼も子ども不足で作り手・引手もない。
- **空き家対策と居住実態の把握:** 多くの空き家があり、老朽化や管理が問題。住民票はあるが実際に住んでいない世帯もあり、災害時や防犯体制に不安。
- **交流拠点の再生:** コロナ禍を経て近所付き合いが希薄に。公民館を「お茶飲み会」や多世代が集まる場として活用し、子ども達が地域への愛着を育む機会に。

## ■ 七ツ森地区(2025年10月27日)

### ● 主な課題・意見:

- **インフラ管理の透明化と連携:** 町・行政区・七ツ森リゾート開発の境界を明確にし、管理費の使途やゴミ管理の「見える化」による三者連携を求める。
- **七ツ森の自然を活かして:**「水のおいしさ」「景観の良さ」「ウインタースポーツ」「雪あそび」といった魅力は「那須や軽井沢にも負けない」。老朽化した空きペンションを整備するなど、環境維持への施策も必要。
- **「消防・防災」体制:** 消防団員が少ないなど、消防体制や防犯上の不安がある。消火栓の維持管理や災害時の避難体制など、防災機能の強化も必要。

## ■ 大寺一区(2025年10月28日)

### ● 主な課題・意見:

- **「育成会」の再編:** 人手不足で「育成会」の継続が危ぶまれる中、学校教育(総合学習)と連携して子供たちが祭りに関わるなど、新しい形を検討してはどうか。
- **生活インフラの維持:** 布藤堰の「堰さらい」など高齢で困難との声も出る中で、空き家による景観悪化の懸念など環境整備をどう維持して行くかが課題。また、農村公園の遊具更新がされていない。
- **外部人材の活用:** 地域おこし協力隊など外部人材が、「任期だから終わり」ではなく、次へ続く様しっかり引き継いで欲しい。集落支援員等が、住民の「やりたい」を形にするための良き相談相手となることを期待。

## ■ 更科団地(2025年10月31日)

- **主な課題・意見:**

- **通学・通勤コスト:** 高校生の定期代や送迎の負担が重い。定期代補助やオンデマンドタクシーの延長、早朝運行が切望されている。
- **住宅需要:** 町営住宅の空屋対応や、将来的な高齢化を見据えた除雪体制など、長く安心して住み続ける為の住環境整備が課題。
- **行事充実と運営の工夫:** 子どもが多くイベントも盛んで、子どもを介して交流も生まれている。費用面や運営体制も無理なく楽しむ工夫が定着している。

## ■ 大寺四区(2025年11月4日)

- **主な課題・意見:**

- **行政区の再編:** 老人会や育成会も解散してしまい、行事の継続が困難。4・5・6区との合併など、町と行政区再編の検討もすべきではないか。
- **祭礼の復活やコミュニティ再生:** 「祭りの復活」や元気な高齢者が主役となって多世代と交流できる、賑わいのある場づくりが必要。
- **登下校の安全確保:** 詳細なクマ出没情報の提供とともに、老朽化した歩道橋は、費用や負担の少ない横断歩道への切り替えにすべきではないのか。

## ■ 磨上地区(2025年11月10日)

- **主な課題・意見:**

- **農地基盤整備:** 基盤整備を進めることで、自然にやり手が集まる魅力的な農地にしたい。獣害(クマ)対策と耕作放棄地の解消にも重要。
- **協力隊の活用と「住まい」の確保:** 制度を活用し就農希望者が定着できるよう、魅力的な農地と住居(空き家活用等)をセットで支援する仕組みが必要。
- **ブランド力向上とコミュニティの再興:** 自慢の農産物の価値を町や農協が戦略的に売り出すことを望んでいる。また、以前、地区の方が開いた収穫祭のようなイベントがあれば、町外の人との交流や住民の絆を深める場になって良いと思う。

## ■ 赤枝地区(2025年11月17日)

- **主な課題・意見:**

- **伝統の継承危機:** 「赤枝彼岸獅子」や消防団、婦人会など、あらゆる団体の高齢化が進み行事の継続や、空き家や農地の維持管理も危ぶまれている。
- **高齢化と生活環境の維持:** 高齢者世帯が増え、除雪や健康的な生活をどう維持するのか。進学した子ども達に戻れる様な生活インフラと賃金確保が必要。
- **外部人材への期待:** 地域おこし協力隊制度の活用や、研究者・外国人など外部人材の受入れをしたい。町には、定住や就農に向けた住宅確保等の協力を。

## ■ 上西連地区(2025年11月18日)

- 主な課題・意見:
  - 伝統行事の維持: 多くの祭礼があり、今後の維持が課題。地域おこし協力隊などの協力や、外部人材を柔軟に受入れるなど時代に合った伝統継承が必要。
  - 就農支援: 稲作は初期コストが高く新規就農が難しい。スモールスタート可能な畑作支援や、体験メニューの充実が必要。儲かる農業の仕組みづくりを求める。
  - 学校を核としたコミュニティ構築: 第二小学校の「地域参加型の行事」が大変好評。“地域コミュニティの拠点”とし子ども達の教育を支援して行く事が、大人もこの地に住み続ける意義や、移住のきっかけにもなる。

## ■ 大曲地区(2025年11月27日)

- 主な課題・意見:
  - 担い手不足: 高齢化により役員の固定化や人足の人手不足。コロナ禍で途絶えた「厩嶽山祭り」の復活も難しいが、地区ならではの活気を再構築して行きたい。
  - 女性主体のコミュニティ: 「女性だけの交流会(料理会や食事会)」を企画することで、より円滑なコミュニケーションや地域活性化に繋がるのではないかと。
  - 住宅造成と集落のルールの周知: 山々を望む景観を活かし、移住を促す住宅造成を町に期待する。また、移住前に地区のルールを知ってもらう仕組みも必要。

## ■ 下西連地区(2025年11月28日)

- 主な課題・意見:
  - 住環境の魅力: 景観の良さや東部に比べ雪が少ない西部地区の利点を活かし、移住促進や若者住宅退去後の受け皿となる住宅整備が求められている。
  - 農地の維持と担い手: 10~20年後の農業をどう引き継いでいけるか。獣害の抑制の為に、農地や地区内の環境維持が重要。土地や農地を継承する柔軟な仕組みづくりと、次世代の移住定住を促進する住宅や環境整備が重要である。

## ■ 落合地区(2025年12月8日)

- 主な課題・意見:
  - 公民館建替え: 物価高騰など資金的にも長年の課題。農産物加工所など多機能な拠点とするなど、活用やあり方についても役場との継続した話し合いが必要。
  - 担い手不足: 高齢化が進み人足や除雪など近い将来、人手不足となる。地域おこし協力隊や集落支援員など、制度を活用しながらの仕組みづくりが必要。

### 3. 全 25 地区を通じて多かった課題のまとめ

今回の各地区での座談会で、どのような課題やご意見が多かったのかを以下の様に分析し、5つの大きな課題軸が明確になりました。

#### 【1位】担い手不足・高齢化(23 地区／92%)

多くの地区で、祭礼・運動会・育成会など地域行事や地区運営を担う人手が不足しているとの声が出ています。行事の継続や役割の引き継ぎが困難になっている点が共通の懸念です。地域おこし協力隊や移住者の受入や、学校との連携、行事の見直しの声がありました。

#### 【2位】人口減少・移住定住の課題(16 地区／64%)

移住希望者が住める住宅が不足している、若者住宅は定住しにくい制度運用でもったいないといった指摘が複数地区で出ています。住まいの確保が進まないことが、担い手不足と連動しているとの認識が示されました。空き家や宅地の活用と、若年層の定住を促進する為には、通学費補助や交通補助も有効なのではとの提案もありました。

#### 【3位】空き家・共有地・土地利用の課題(10 地区／40%)

所有者不明の共有地や空き家が利活用を阻む事例が報告され、防災・景観・移住受入れの観点からも放置は問題とされています。共有地の登記整理や空き家の利活用など、高齢化の進行により具体的な取組みを急ぐ意向が示されました。

#### 【4位】農業の事業承継と獣害(9 地区／36%)

後継者不足、耕作放棄地の増加、イノシシ・クマ等の獣害が農地維持の阻害要因として挙がっています。住まいと農地をセットにした就農希望者の受入の他、獣害対策と環境整備の必要性を求める声も多々ありました。

#### 【5位】生活インフラと独居高齢者の孤立(9 地区／36%)

冬季の除雪負担、通学バスの不足や通学・通勤コスト、独居高齢者の孤立と安否確認の課題が複数地区で指摘されました。除雪や交通の対策に加え、多世代での交流や見守りなど地域の繋がりを深める様な取り組みへの意欲も示されました。

※ 補足事項(集計の範囲と留意点) 割合は該当地区数／25 地区で算出しています。